

推し文豪診断

制作：谷口美羽

『推し文豪診断』とは？

推し文豪診断とは、近代文学の推進を目的としたフローチャート形式の診断です！

二択形式の簡単な質問に答えるだけで、数々の有名な日本近代文学の文豪たちの中からあなたにぴったりの文豪を見つけることができます。また、結果画像には文豪の人となりや作品の特徴が分かるような解説とおすすめの作品の紹介をのせています。

普段日本近代文学作品を読まない人でも手に取りやすい作品を中心に厳選しましたので、ぜひ読んでみてください。

さあ、次のページにある診断であなたの『推し文豪』を見つけましょう！

押し文豪診断

スタートはここから！

自分はどちらかといえば…

ロマンチストだ リアリストだ

怪奇小説や幻想文学作品を
読んでみたいと…

思う 思わない

有名な作品の
パロディを読んでみたいと…

思う 思わない

童心に帰りたいと思うときが…

ある ない

『西遊記』などの
中国文学作品に興味…

ある ない

古文調や漢文調の文体は…

趣があって好きだ 難しくて苦手だ

多くの人たちの間で
流行っているものは…

自分も好きにあまり興味が
なることが多い ない

い

る

本を読むときは…

リラックスして スリルや緊張感
読みたい を味わいたい

人間がもつ闇や欲望に
興味が…

ある ない

に

は

主に女性を中心に描いた
作品に興味…

ある ない

ほ

へ

短編か長編で読みたい小説は…

短編小説 どちらも読みたい

と

い.宮沢賢治



【おすすめの本】

一.注文の多い料理店

この作品は、1924年に同タイトルで刊行された短編集に収録された童話のうちの一つです。登場人物である二人の若い紳士はあるとき、狩りをするために山奥まで出かけます。しかし、いくら待っても獲物は出てこず、さらに案内人とはぐれ、連れてきた猟犬も泡を吹いて倒れてしまいました。そういったこともあり、おとなしく山を下りて帰ろうとした二人の元に、突然「山猫軒」という謎の西洋料理店が現れます。そして、ちょうどお腹をすかせていた二人はその店に足を踏み入れてしまうというお話です。

宮沢賢治の作品は独特な世界観が魅力ですが、内容の解釈が難しく、読むのをためらう人もいます。しかし、この作品は比較的読みやすく、内容も理解しやすいので、宮沢賢治作品の入門作にぴったりです。彼の作品に興味がある方はぜひこの作品を読んでみてください。

【人物像】

宮沢賢治は日本の詩人であり、童話作家でもあります。その他にも農学校の教師や科学者、宗教家など、生涯に渡り様々な方面で活動していました。

その中でもとくに熱心に携わったのは農業で、教師を辞めた後は下根子桜(現花巻市桜町)で自分の畑を作って耕し、自炊生活を始め、百姓と同じ生活をするようになりました。1926年には羅須地人協会を設立し、農民の生活向上を目指しました。

そんな彼の作品は、自身が信仰する法華経や、生涯をかけて自身が携わった農業の精神が根底にあるものが多いです。また、幼い頃から鉱物収集や昆虫・植物などにも関心があり、博物学に詳しくことから、作品内でもその豊富な知識が感じられるような描写があります。

二.春と修羅

この作品は、宮沢賢治が制作した詩であるとともに、その詩を収録した詩集でもあります。詩集は全部で第三集ありますが、宮沢賢治の生前に刊行されたのは第一集だけです。この詩集に収録されている詩は、心象スケッチにより宮沢賢治の心の内面が独特な世界観で描かれています。

出版社によっては大活字かつ読み仮名付きのものもあるため活字を読むのが苦手な人でも楽しむことができます。詩を読むのが好きな方や、宮沢賢治の心象風景に触れてみたい方はぜひこの作品をよんでみてください

る.中島敦



【人物像】

中島敦は、昭和初期に活躍した文豪です。彼の作品は漢文を彷彿とさせるような硬質さと格調高い美しさを併せ持った文体が特徴で、中国古典を題材とした作品を中心に執筆していました。

彼は大学を卒業した後、横浜の高等女学校で教鞭を執りつつ小説を執筆していました。作文の評定は厳しかったものの、授業の内容は楽しく、生徒たちから人気があったそうです。また、彼は小柄で細身でしたが声は大きくてよく通り、人当たりがよくて機転が利く性格だったそうです。

他にも、彼は非常に多趣味であるという一面もあり、旅行や山登り、音楽鑑賞、園芸、ラテン語など、分野を問わず様々なことに精通していたそうです。

【おすすめの本】

一.山月記

この作品は、1942年に『文學界』という雑誌で掲載された短編小説で、中国古典の『人虎伝』が題材だと言われています。物語の舞台は唐の時代の中国。詩人になるという夢を叶えることができなかつた「李徴」という男はある日、虎の姿になってしまいます。徐々に人間としての意識を失っていく彼はあるとき、偶然近くを通りかかった友人の袁軫と再会します。

この作品は、ある二つの感情に支配されたことで虎に変化した李徴の姿を通して、多くの人たちが心の奥底に秘めている苦悩を描いています。そのため、作品を通して自身の生き方を見直すことができる、人生の教訓になるような内容だと言えるでしょう。教科書にも載っている作品なので内容を知っている人もいますが、読み返すと新たな発見があるかもしれません。中島敦の作品に興味がある方はぜひこの作品を読んでみてください。

二.悟浄出世

この作品は、未完とされている『わが西遊記』という連作小説に収録されている短編小説の一つです。中国古典の『西遊記』という有名な作品を題材としており、物語の主人公である「沙悟浄」が「自分とは何か」という答えを探して渡り歩く過程を描いています。沙悟浄が「自分」とは何かという答えを探し求める中で様々な賢人たちと出会うのですが、それぞれ個性豊かな人物で主人公とのやり取りがとても面白いです。また、彼らとの出会いを通して変化していく沙悟浄の姿も作品の見どころです。

題材である『西遊記』を知っている人はもちろん、知らない人も楽しめる作品ですので、興味がある方はぜひこの作品を読んでみてください。

は.泉鏡花



【人物像】

泉鏡花は、明治後期から昭和初期にかけて活躍した文豪です。彼は感受性や主観を重視する思想であるロマン主義の作家として広く名を知られています。彼の作品は古文調で美しい文体で記された幻想的な世界観が特徴です。

彼は神仏に対する信仰が厚く、神社仏閣の前ではどのようなときでも常に土下座をして礼拝していたそうです。また、彼が敬愛する師匠である尾崎紅葉の写真を自宅の床の間に飾り、供物を欠かさなかったことから彼の真面目な人柄がうかがえます。

また、彼は極度の潔癖症としても有名です。例えば、彼は刺身や酢の物などのなまものは絶対に口にせず、よく煮たものしか食べようとしなかったことが彼の知人の書籍にも記されています。他にも、煙管を吸う際には吸い口にキャップをつけたり、外出の際には消毒液入れを持ち歩いていたそうです。

【おすすめの本】

一. 外科室

この作品は、1895年に『文芸倶楽部』という文芸雑誌で初版が掲載された、短編の純愛小説です。物語の語り手である『私』は画家で、あるとき友人の高峰医師が手術をする様子を見学することになります。しかし、患者である貴船伯爵夫人は「麻酔で意識がもうろうしているときに、自分が抱えている秘密を言ってしまうかもしれないことが怖い」と言って手術を拒みます。

物語が進むにつれて夫人の秘密と共に明らかになっていく真実は切なくもありつつ、美しさも感じられます。また、この小説からは作者の思想の一部も読み取ることができ、読者は「愛」の形について考えさせられることでしょう。現代とは違った恋愛観に触れてみたい方は、ぜひこの作品を読んでみてください。

二. 高野聖

この作品は、1900年に『新小説』という文芸雑誌で初版が掲載された、短編の幻想小説です。主人公である「私」は旅の途中で宋朝という僧に出会い、同じ宿に泊まることとなります。そしてその晩、宋朝は寝物語の代わりとして、彼が若い頃に経験した不思議な話を主人公に聞かせます。

幾重にも折り重ねられた語りによって紡がれる物語の世界はとても幻想的で、読んでいると徐々に深みにはまっていきます。また、作中で登場するある女性は二つの性質を秘めており、読者も彼女の魅力にひかれることでしょう。

この作品は古典的な文章が多く用いられているので、少々難解に感じる人もいるかもしれませんが、しかし、出版社によっては本文を現代語訳したものもあり、そちらでも作中の雰囲気をも十分に味わうことができます。『高野聖』は泉鏡花の作品の中でもとくに有名な作品なので、彼の作品に興味がある方はぜひ読んでみてください。

に.夏目漱石

【人物像】

夏目漱石は、明治末期から大正初期にかけて活躍した文豪です。かつては千円札に肖像として描かれたこともあるなど、国民的な作家の一人として広く名を知られています。彼の作品は世俗的な考えから離れ、余裕をもって自然や芸術、そして人生を眺める趣向である低回趣味的な思想を含み、時代を超えてもなお多くの人たちから愛されています。

そんな彼は負けず嫌いな性格として知られており、ペンネームの「漱石」も「負け惜しみが強い頑固者」という意味が含まれています。

また、彼は芥川龍之介や正岡子規、高浜虚子などの多くの知人や門下生に慕われており、毎週木曜日には彼の自宅で「木曜会」という会合が開かれていました。

他にも、彼はひと月に4kgものジャムを舐めていたほどの甘いもの好きでとくにピーナッツに砂糖をまぶしたお菓子である落下糖が大好物だったそうです。



【おすすめの本】

一. 吾輩は猫である

この作品は、1905年から『ホトトギス』という俳句雑誌で連載されていた長編小説です。主人公は、自分のことを「吾輩」と呼ぶオスの猫。彼に名前はなく、生まれてすぐに捨てられました。そんな彼はあるときから苦沙弥(くしゃみ)先生という英語教師の家で生活することになります。私たちが当たり前のように生活している人間社会を猫の視点から描いたこの作品は、人間たちを上から目線で観察しながら、その様子を猫が堅苦しい日本語で語っているというギャップが面白いポイントです。

「吾輩は猫である。名前はまだない」という有名なフレーズでお馴染みの『吾輩は猫である』ですが、その内容自体は詳しく知らないと言う人も意外といるのではないのでしょうか。昔から愛されていることが納得できるような名作ですので、ぜひ一度読んでみてください。

二. 倫敦塔(ロンドンとう)

この作品は、1905年に『帝国文学』という学術・文芸雑誌に掲載された短編小説です。作者である夏目漱石が実際にロンドンに留学した際、ロンドン塔を見物したときの体験を題材としています。そして、作品には主人公である「余」が2年間ロンドンで留学した際、一度だけ見物した倫敦塔について記されています。

作品内の出来事を読者自身も追体験しているかのような臨場感と不思議な空想が混ざりあったこの作品は、読んでいるうちに段々と夢中になっていくような魅力があります。夏目漱石の作品に興味はあるものの、いきなり長編小説を読むのはハードルが高いという方は、ぜひこの作品を読んでみてください。

ほ. 谷崎潤一郎



【人物像】

谷崎潤一郎は、明治末期から第二次世界大戦後の昭和中期頃にかけて活躍した文豪です。彼は道徳や常識に捉われずに自分が考える美を徹底的に追求する文芸思想である耽美派の作家として知られています。彼の作品はどこか艶めかしさのある独特な雰囲気の内包した美に関する描写が特徴で、一種の芸術性を感じられます。

彼は強い女性崇拜思想を抱いていたことで有名で、その思想は彼の作品にも反映されています。その要因の一つとして、当時では珍しい母親が父親を尻に敷くような女性優位な家庭環境で育ったことが影響しているのではないかとされています。

また、彼は作品のインスピレーションを得るために転居を繰り返しており、その回数は40回以上だと言われています。他にも、持病が悪化して右手が麻痺した際は口述筆記を行いながらも生涯に渡って執筆活動を続けており、彼が執筆活動に対して強い情熱を注いでいたことがうかがえます。

【おすすめの本】

一. 刺青

この作品は、1910年に『新思潮』という同人誌が初出の短編小説です。主人公は腕利きの刺青師である「清吉」で、彼は美女の肌己の魂を刺りこみたいという願望を抱いていました。そして、そんな彼があるとき、自分の理想と一致した娘を見つけたことから物語は進んでいきます。

谷崎潤一郎本人が処女作としているこの作品は、彼の思想である女性崇拜と、美に対する強い拘りが反映されています。とくに、作中の娘に関する描写が緻密で、常人離れした美しさをもつ娘に主人公と共に引き込まれていく感覚を味わうことができます。谷崎潤一郎の代表作の一つとして有名なこの作品は、谷崎潤一郎の入門作としてもぴったりだと思います。彼の作品に興味がある方はぜひこの作品を読んでみてください。

二. 魔術師

この作品は、1919年に初版が発行された短編の怪奇小説です。主人公である「私」は初夏の夕べ、恋人と共に公園の池の近くに建つ見世物小屋を訪れます。そこには若く美しい魔術師がおり、観客たちに数々の摩訶不思議な魔術を披露し、人々を魅了しているといううわさがありました。そして、作中ではその魔術師と出会った主人公が徐々に心ひかれていく様子が描かれています。

まるでおとぎ話のような幻想的な雰囲気をもつこの作品は、現実離れしていながらもどこか生々しさもあり、絶妙なバランスを保っています。また、この作品も谷崎潤一郎の美的価値観が感じられる描写を多く含んでいるため、彼の世界観にたっぷり浸ることができます。現実から一歩離れたような非日常的な世界を味わってみたい方は、ぜひこの作品を読んでみてください。

へ. 芥川龍之介



【人物像】

芥川龍之介は大正時代に活躍していた文豪です。彼は新しい視点から現実を見つめ直そうとする思想である新現実主義の作家として広く名を知られています。彼の作品は主に短編小説で、『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』などの様々な歴史的文献から題材を得ているものが多いです。

彼は厭世的で神経質な性格で、他者に対して壁を作っていました。一方で、彼の作家仲間である菊池寛などの心を許した相手に対しては親切で、友達付き合いはよかったそうです。

また、彼は読書家で学識豊かな人物で、菊池寛からは「文学上の読書においては、当代その比がないと思う」と評されるほどでした。そんな彼の教養の高さは、彼自身の作品からも感じ取ることができます。

【おすすめの本】

一. 桃太郎

この作品は、1924年に『サンデー毎日』で発表された短編小説です。大昔、深い山の奥にある天まで届くほど大きな桃の木は、一万年に一度美しい赤子の入った実をつけていました。あるとき、おじいさんとおばあさんの元にその桃が流れ着き、そこから生まれた桃太郎は鬼退治に向かうことになります。

『桃太郎』といえば老若男女問わず誰もが知っている有名な日本昔話ですが、芥川の解釈によって書かれたこの『桃太郎』は題名こそ原作と同じでも、その内容はまるで違います。原作を知っていてこそ楽しめる作品だと思えるので、原作と読み比べてみるとまた新たな発見があるかもしれません。芥川龍之介が描く世界観に興味がある方はぜひ読んでみてください。

二. 蜜柑

この作品は、1919年に『新潮』という文芸雑誌で発表された短編小説です。ある曇った冬の日暮れ、主人公である「私」は憂鬱な気分で二等客車の席に座っていました。そんな中、列車が出発する間際になって13か14の少女が乗り込んできて、主人公の前に座ったことから物語は動き始めます。この作品は登場人物の心理描写と情景描写がどちらも丁寧に描かれており、作品内の世界に深く浸ることができます。とくに物語のラストシーンは一番の見どころで、その美しい描写に心が奪われるでしょう。

作品の長さが比較的短く、内容的にも読みやすい作品なので普段近代文学作品を読まない人でも気軽に楽しめると思います。読了後に味わうことができる、曇り空が晴れるような清々しさを味わいたい方はぜひこの作品を読んでみてください。

と.太宰治



【おすすめの本】

一. 葉桜と魔笛

この作品は、1939年に『若草』という文芸雑誌で発表された短編小説です。主人公の老婦人はかつて、父と妹の三人で暮らしていました。その妹は重い病にかかっており、医者から余命は100日以内と宣告されていました。主人公は段々とやせ衰えていく妹の面倒を見ていましたが、ある日妹のダンスから妹と見知らぬ男の文通の手紙を見つけてしまうという話です。この作品は姉である主人公と妹の間にある愛情が繊細に描かれており、美しさがありつつもどこか悲しさを含む、桜のような儂さを感じさせるような作品です。また、作中のとある謎は解釈が分かれており、自然と妄想が膨らみます。

『葉桜と魔笛』は作中の空気感もそうですが、読了後の余韻も心地よく感じられる作品です。趣深い美しさのある物語を讀んでみたい方は、ぜひこの作品を讀んでみてください。

【人物像】

太宰治は、第二次世界大戦から戦後にかけて執筆活動をしていた文豪です。彼は第二次世界大戦後の閉塞感漂う時代背景に対して反発するような作風や言動を見せた作家たちのことを指す無頼派の一人として知られています。

彼は感受性が強く、その性質は彼の作品にも色濃く反映されています。また、自殺未遂や過剰な薬物摂取を繰り返すなど、彼は波乱万丈な人生を送っていました。

他にも、彼は恋多き男としても知られており、女性関係は華やかでした。山梨の女学校で教師をしていた妻の津島美知子さんは、太宰の執筆活動を献身的に支えていました。彼の死後も遺稿などを保存・整理し年譜や全集の作成・編集にも携わりました。歌人で作家の太田静子さんは太宰の愛人の一人で、『斜陽』という小説のモデルとなった人物でもあります。そして、美容師として働いていた山崎富栄さんは最後の愛人であり、太宰と共に心中した人物として知られています。

二. ヴィヨンの妻

この作品は、1947年に『展望』という雑誌で発表された短編小説です。作品の主人公は放蕩な夫をもった若い妻です。ある日、彼女の夫が「椿屋」という小料理屋から多額の金を盗んでいたことを店の夫婦から知られることから物語が始まります。作中では、様々な人と出会い、社会の闇を知ることによって変化していく主人公を中心に描かれており、とくに物語のラストで主人公が語る言葉からその辺かを感じ取ることができるでしょう。

太宰治の作風は前期・中期・後期の3つに分けられることが多いですが、『ヴィヨンの妻』は『人間失格』や『斜陽』などの人気作品と同じ後期の作品です。『ヴィヨンの妻』は短編なのでさらっと読むことができ、後期の作品の雰囲気も十分に味わうことができます。ですので、とくに太宰治の後期の作品に興味がある方は、まずこの作品から讀んでみることをおすすめします。

【参考】

▶中島敦『中島敦全集3』(1993年、筑摩書房)

▶小村雪岱『泉鏡花先生のこと』

https://www.aozora.gr.jp/cards/001268/files/46833_27857.html

▶菊池寛『芥川の事ども』

https://www.aozora.gr.jp/cards/000083/files/1340_19832.html

▶作家別作品リスト：芥川 竜之介

https://www.aozora.gr.jp/index_pages/person879.html

▶文壇での地位を確立 | 幻冬舎ゴールドライフオンライン

<https://life.gentosha-go.com/articles/-/188>

▶転居重ねイメージ追求 谷崎旧居 創作への扉(1): 日本経済新聞

https://www.nikkei.com/article/DGXLASJB03H5N_T00C15A7AA1P00/

▶谷崎潤一郎、晩年の日記8冊 右手の痛みも衰えぬ創作熱 - 産経ニュース

<https://www.sankei.com/life/news/170619/lif1706190006-n1.html>

▶i feel-評論

https://www.kinokuniya.co.jp/05f/d_01/back36/no34/hyoron34/hyoron01_34.html

▶宮沢賢治について | 花巻市

https://www.city.hanamaki.iwate.jp/miyazawakenji/about_kenji/index.html

▶教師 宮沢賢治のしごと | 小学館

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406397>

▶鉾物の登場する作品 - 賢治と鉾物 - Cute.Guides at 九州大学 Kyushu University

<https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/c.php?g=774879&p=5558279>

▶新! 夏目漱石 没後100年、生誕150年! | 新潮文庫

<https://www.shinchosha.co.jp/souseki/trivia.html>

▶夏目漱石-新宿区立漱石山房記念館

<https://soseki-museum.jp/soseki-natsume/>

▶夏目漱石 | 偉人の好物 | 明治の食育 | 株式会社 明治 - Meiji Co., Ltd.

<https://www.meiji.co.jp/meiji-shokuiku/ijinnokoubutsu/natsumesoseki/>

▶回想の太宰治 / 津島 美知子【著】 - 紀伊國屋書店ウェブストア

| オンライン書店 | 本、雑誌の通販、電子書籍ストア

<https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784062900072>

▶【正妻とふたりの愛人】生誕110周年！ 文豪・太宰治 を作った3人の女たち |

P+D MAGAZINE

<https://pdmagazine.jp/background/dazai-women/>

▶芥川龍之介と古典 [978-4-585-07081-8] - 4,730円 : Zen Cart [日本語版]

: The Art of E-commerce

https://bensei.jp/index.php?main_page=product_book_info&products_id=7081

▶あくたがわりゆうのすけ【芥川龍之介】 | あ | 辞典 | 学研キッズネット

<https://kids.gakken.co.jp/jiten/dictionary01100258/>

▶芥川龍之介はコンプレックスのかたまり | 一学楽校Navi(いちがくらくこうナビ)

<http://ichigaku-rakukou.net/column/1792/>

▶煉獄への意思：太宰治 | HolisticStyleBook

<https://h-stylebook.com/煉獄への意思：太宰治/>

▶太宰を知る - 太宰ミュージアム

http://dazai.or.jp/modules/know/index.php?content_id=2

▶中島敦： 舎人学校

http://pro.cocolog-tcom.com/edu/2005/09/post_0c96.html

タイトル：推し文豪診断

発行：梅花Web出版

制作者：梅花女子大学
文化表現学部
谷口美羽

日本文化創造学科

発行日：2021年7月9日

本を読むことが、読書なのではありません。
自分の心の申に失いたくない言葉の
たくわえ場所をつくり出すのが、読書です

長田弘『読書からはじまる』